床ずれを一緒に考える情報誌

Together
トゥギャザー

2015年春号
vol.18

巻頭レポート Special Report

介護の担い手にいい環境を。

社会福祉法人サンライフ／サンビジョン
リハビリ統括責任者 篠田 明さん

ノーリフトポリシーと介護保険制度改革

環境整備の最前線

データに基づく交渉で実現したマットレスの院内レンタル

彦根市立病院 専門領域担当看護科長 北川智美さん

Taica

Together トゥギャザー vol.18
平成27年5月18日発行　発行／株式会社タイカ　〒125-0054　東京都葛飾区高砂5-39-4

Column

医師の本音を調査

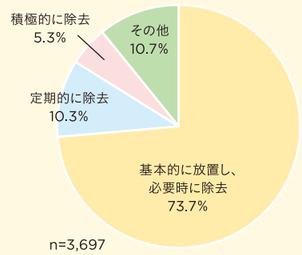
ドクターに聞きました！

医療関係者なら「それってどっち？」と迷いがちなあれこれ、ドクターの本音は？
医師専用のクチコミサイト「MedPeer（メドピア）」の調査結果をレポート！

医師専用コミュニティサイト「MedPeer」調べ　http://medpeer.jp

Q1 “へそのゴマ”は取るべき？

（調査期間：2014年7月30日～8月5日）



「取りたくなるが、患者から申し出があった場合のみ除去」

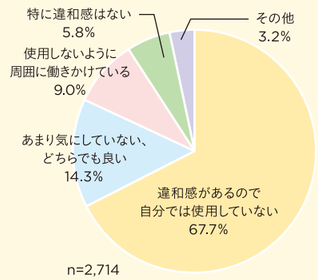
「さわるとかえって炎症を惹起することがあるので放置」

「オリーブオイルで柔らかくしてから除去する場合も」

7割を超える医師が、「基本的に放置する」と回答しています。「炎症所見がなければ特に問題ない」「炎症を起こせば対処」というコメントが大勢を占めました。なかには、「皮膚を傷つけることでむしろ感染を起こすことをしばしば経験」というコメントも見られました。

Q2 患者「様」という呼び方、違和感ある？ ない？

（調査期間：2011年11月16日～11月22日）



「患者さんとの関係に距離を感じてしまう」「お互い対等な関係であるべき」

「呼び方ではなく個々の接し方のほうが大事」

「呼ぶ時はさんづけで、文字媒体のホームページなどは患者様を使っている」

こちらも7割近い医師が、「違和感があるので自分では使用しないようにしている」と回答しました。「お互い対等な関係であるべき」と、病院として「様」づけをしないように指導している例も見られ、「病院の方針に従う」というコメントも目立ちました。

TOPICS

ポジショニングクッションに新シリーズが登場！

ウェルピーHC

特殊加工のウレタンチップが広い面積で身体を支え、体重を広く分散します。へたりに強く、洗濯 80℃・乾燥 100℃対応で清潔さもキープ。体位変換しやすいポケット付き。

新しいマークが誕生しました。

アルファプラ・バランス

タイカでは、マットレスは安定性 × 体圧分散 × 快適性がバランスよく機能していることが大切だと考えています。ご本人の“生きる意欲”と周りの方々の“見守る心”を優しくサポートしたい――そんな思いを込めています。

Together 編集部発 編集長のひとりごと

お待たせしていました『Together』ですが、装いも新たに誌面リニューアルしました！ 記念すべきリニューアル号は、季節に合わせた春らしい装丁で、床ずれ対策とタイカの情報をさわやかにお届けします。

Vol.19の発行は2015年8月下旬！

無料配送申し込み、本誌内容についてのお問い合わせはこちら　pla@taica.co.jp　TEL.0120-152047（とこずれしない）（無料）

Special Report

平成27年度4月の介護保険制度改正により、これからの介護現場にはどのような変化や展望が起きるのでしょうか？ノーリフトポリシーの導入と定着に尽力する、篠田明さんにお話を伺いました。

社会福祉法人サンライフ／サン・ビジョン
リハビリ統括責任者
理学療法士・介護支援専門員
篠田 明さん

巻頭レポート

ノーリフトポリシーと介護保険制度改革

昨年12月の浴室改修を機に天井走行式リフトを設置し、入浴時の利用者様・職員の過度な負担を軽減する環境を作る。以前は床走行式リフトを使用しており脱衣場での使用しづらさがあった。

住宅と田畑に囲まれた、木曽川にもほど近い愛知県北部の平野に建つ『フラワーコート江南』。平成2年開設の5階建ての館内は明るく、利用者様が楽しく過ごせるようにと工夫された装飾に職員の愛情が感じられます。篠田さんは館内のどこを訪ねても、「こんにちは！」「調子はどうですか？」と元気にあいさつ。声をかけられた利用者様や職員たちも笑顔で応じ、安心して過ごす日々の様子を垣間見る思いがします。

腰痛など問題改善のため全国規模の協議会を設立

同法人では平成21年より、〝押す・引く・持ち上げる・ねじる・運ぶ〟を、過度な負担を伴う状態では行わないノーリフトの考え方（ノーリフトポリシー）に則った介護に取り組んでいます。

「ノーリフトポリシーの出発点は、利用者様の体の状態に合った介護方法とは何か？その時に職員の体の使い方は、どうするのが最も負担なく安全か？というものです。当法人ではトップ（李野暉尚理事長）の方針により、2009年の秋から取り組みをスタートさせました」

平成22年に法人独自のマニュアル本を作成し、約2200人の職員のうち500人以上の職員が法人独自の研修を終えています。

「法人内での研修実施やノーリフトの取り組みを法人内で共有するために、当法人で毎年行う『福祉QC・研究発表会』においても、ノーリフトをテーマにしました。発表会という強制力で職員を本気にさせ、取り組みのために用具が必要となれば購入もする。ノーリフトの導入には、こうした用具の購入や研修費に多くの費用がかかります。かけただけの効果がある、と当法人では判断していますが、全国的な普及のためには、他の法人トップの方にもぜひ理解していただくことが大事です。そこで、平成26年に、16の法人が発起法人となり全国ノーリフト施設協議会を設立しました。全国の取り組みを共有し、研修会を行い、指導者も育成します。研修しておしまい、ではなく、現場への浸透が何より重要なので、全国大会を開催し、他法人の取り組みや行政の考え方、他国の取り組みなどを知る場としています」

優秀な人材はいい職場環境に集まる

平成27年4月の介護保険改正により、特別養護老人ホームの入所は要介護度3以上が基本という制限が設けられました。同法人のような施設においては重度の方のケアが増えるため、今まで以上に、介護サービスの機能・専門性や、職員の質が重視されるのでは、と篠田さんは見ています。

「でも、人員配置は簡単には変えられない。限られたマンパワーで質の高いケアを行うには、心身の負担が少ないノーリフトポリシーが必要不可欠となるでしょう。10年後の大介護時代には担い手が足りなくなると言われますが、実は、人がいないのではなく、いい人材はいい労働環境に集まるのだと思うのです。いい労働環境とは、年齢や性別を問わず長く働けること、そして、自分の専門性が発揮でき、成長できること。介護の仕事に理想を持てること。きちんと休暇が取れることも大事です。そうした職場では、前向きな先輩を見て新人が育ち、転職してくる人や復帰者も定着しやすい。優秀な人材が増えることで、仕事の効率は上がり、結果、質の良いサービスにつながると考えます」

実際、同法人では、退職した職員が「やはりここがいい」と復職したり、他所からの転職者が「ここなら長く働けそう」と言ってくれることも多い、と篠田さん。経験者はサービス向上の即戦力でもあります。

「腰痛で仕方なく辞めただけでやる気はある――そういった人材が、やりがいを持って長く働ける職場にしたい。当法人で介護職に初めて就いた新人職員は、ノーリフトポリシーが介護の現場では当たり前のものと考えています」

Akira Shinoda

理学療法士、社会福祉法人サンライフ／サン・ビジョンのリハビリ統括責任者。全国ノーリフト施設協議会の事務局として講義・指導を通した啓蒙活動も行う。

同法人のノーリフトに関する職員アンケートを見ても、導入以前は6割あった腰痛が、導入後は4～5割に減少。事業所によっては3割まで減った例も。効果は表れています。

「今では、腰痛が気になる業務を尋ねると、ベッド上の排泄からトイレの排泄へと負担感は移動してきました。ノーリフトの定着で、ベッド上の業務の改善に効果が出てきたからこそ、トイレが意識され始めたのだと思います。そこをどう改善していくかが、今後の課題です」

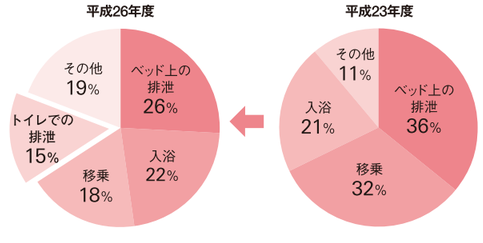
地域包括ケアシステムはぜひ成功してほしい

このたびの制度改正の大きなテーマである地域包括ケアシステムについても伺うと、「超高齢化となる今後の日本に欠かせない仕組み」と篠田さんは期待しています。

「私も半年、父を自宅で介護しました。私はたまたま、介護に詳しい。けれど通常は、誰もが初めての介護に直面して動揺します。家の人が倒れた、さあ、どうすればいいか。そんな時、地域包括ケアシステムが機能していれば、初めての介護であっても、現状よりスムーズに必要な情報や施設が見つけられるのではないでしょうか。ぜひ、地域包括システムは成功してほしいと思いますし、その際に選ばれる法人でありたい。地域の利用者様に必要な専門性を高められるよう、さらに努力していきます」

地域の老人保健施設の中心的存在になると同時に、全国の介護現場にノーリフトポリシーを定着させるべく、これからも啓蒙活動を続けたい――。篠田さんの優しくも快活な雰囲気は、施設全体に満ちる明るさの源のようでした。

「いい人材はいい労働環境に集まるのです」



職員アンケートに見る「腰痛が気になる業務」の推移

ノーリフトに取り組み後、移乗14%減、ベッド上の排泄10%減と効果が出ている。平成23年度はその他に含まれていたトイレでの排泄が15%と増えており、以前は割合が大きかった項目が小さくなることで、小項目が現れ新たな取り組みのポイントになっている。

「ノーリフトをベースに負担の少ない質の良い介護を」

上／床上19.5cmまで下がる昇降式ベッド。介護も楽に。これもノーリフトの取り組みの一つ。
下／ベッドから車いすへの移乗時にも、利用者様の状態に応じて、リフトやローラースライドフレキシなどを活用。過度な負担の軽減につながる方法を常に検討する。写真の車いすはストレッチャーのようにフルリクライニングするタイプ。

法人名	社会福祉法人サンライフ
施設名称	介護老人保健施設フラワーコート江南
住所	〒483-8363 愛知県江南市河野町五十間4
TEL	0587-58-7701
FAX	0587-58-7707
事業所	介護老人保健施設 ＜入所定員158名＞ 通所リハビリテーション ＜定員70名＞ 訪問リハビリテーション

少子高齢化社会をトータルサポートする社会福祉法人。法人理念に基づき「ノーマライゼーション」＝利用者が最後まで人生に役割をもってもらえるよう支えること、「街づくり」＝積極的に安心して生活できる街づくりに貢献していくこと、「職員育成」＝組織の要は人財であることを肝に銘じ真の専門職を育てること――この3つの視点のもと、多世代の幸福を考える法人として、介護、住宅、子ども、医療サービスを提供。

タイカとの連携について
詳細はP7へ
「マットレスのほか、スマイルシートを法人全体で導入しています。研修や協議会にも協力いただきました。営業の飯沼さんは、利益につながらなくても面倒がらない。非常に頼みごとがしやすいですね」（篠田さん）

URL
http://www.e-sunlife.or.jp/

無料配送申し込み、内容についてのお問い合わせはこちら ✉pla@taica.co.jp TEL.0120-152047（とこずれしない）（無料）

Interview

環境整備の最前線

データに基づく交渉で実現したマットレスの院内レンタル

彦根市立病院
看護部 専門領域担当看護科長
皮膚・排泄ケア認定看護師
北川智美さん

Tomomi Kitagawa
褥瘡外来を担当し、地域と包括的な褥瘡予防に早くから取り組んできた褥瘡ケアのエキスパート。厚生労働省の施策事業「特定行為に係る看護師の研修制度」に参加し、現在は山形大学大学院医学系研究科看護管理学の修士課程に在籍。そのほか、日本褥瘡学会評議員、日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会理事を務めるなど、院内のみならず滋賀県を中心に全国の褥瘡対策に奔走中。

“褥瘡ゼロ”を実現した彦根市立病院。そのマネジメントの中で特徴的なのは『マットレスの院内レンタル』です。病院では先駆的なレンタルの導入経緯とそのメリット、さらに今後の褥瘡対策について、北川智美さんに伺いました。

今回取材に向かったのは琵琶湖のほとり。国宝・彦根城と、名峰・伊吹山を望む風光明媚なロケーションに建つ彦根市立病院です。こちらで、褥瘡ゼロ”を実現した、皮膚・排泄ケア認定看護師（以下WOC）北川智美さんを訪ねました。

手本も何もない、手探りの状態から褥瘡対策をスタートして10年。彦根市立病院における褥瘡発生患者の院内発生率は、手術室も含めてここ数年ずっとゼロもしくは1％未満を達成しています。北川さんは、なぜ褥瘡ゼロを達成することができたのでしょうか？ そのキーワードは『データ』でした。

“論より証拠”で導入実現 マットレスの院内レンタル

褥瘡対策にあたって、まず北川さんが始めたのは、病院内の環境づくりでした。当時は、体圧分散マットレスが慢性的に不足している状況だったため、病棟内での取り合いも頻繁に起こっていたとか。

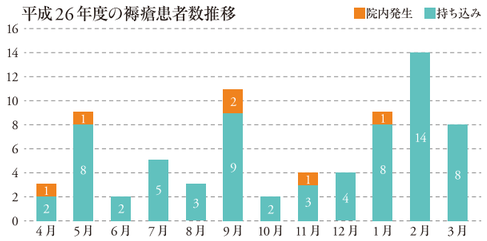
「マットレスは褥瘡をつくらないための手段であり、道具です。何とかして準備しないといけないけど、新しいマットレスを購入してほしくても当時の私にはそれを訴える力も実績もない。でも現実としてマットレスを必要としている患者さんが目の前にいる――毎日ジレンマを抱え、中古でもいいから手に入らないかと切実に悩みました。そして最終的に行き着いたのが、マットレスのレンタルだったんです」

北川さんはさっそく、病院側に導入を提案。その提案では、データを徹底活用しました。

「毎月の褥瘡患者数とマットレス使用数など現状をデータで示しました。数値化されたデータを見ると季節変動があることは一目瞭然。マットレスの数はマックスを揃えるのでなく、年間平均を割り出して基準となる数を院内持ちとし、それ以上はレンタルで補ってはどうか――そう提案したんです」

そのほか、マットレスを購入した場合に必要な補修費や保管場所など、管理・運用に関する現場の問題を理解してもらうためのデータも収集しました。

「平成18年の診療報酬改定で『褥瘡ハイリスク患者ケア加算』が盛り込まれた追い風を生かして、診療報酬に対して購入とレンタルのコスト比較をしたデータで、これだけ病院にメリットがあるんだとリアルな数字で説得しました。まさに“論より証拠”。以来、データ活用は私の交渉術の基本です」



レンタルの導入で褥瘡ケアの意識が向上

一方で、レンタルの導入によって新たな運用上の問題は発生しなかったのでしょうか？

「むしろメリットのほうが多かった」と北川さんは明快です。

「レンタル料がかかりますから、マットレスを必要とする患者さんに、必要な日数だけ使用するように意識付けることは大変でした。しかし、改めて“マットレスが必要な患者さん”について熟考することができました。どんな症状の患者さんに、どんな種類のマットレスが必要なのか。現場の看護師一人ひとりが考え、行動するという環境や教育ができたのは、思わぬ副産物でしたね」

感染管理の点でも、十分にメリットがあったそうです。購入したマットレスは洗浄が容易にできず、アルコール消毒の作業負担も大変で、衛生面で課題を抱えている場合があります。しかも、使用後のメンテナンスや片づけ作業に人手が必要であったり、使用中に壊れてしまうことも少なくないといいます。

「レンタルであれば、使用後はマットレスを返却するだけ。使用中に壊れてしまうといったトラブルがあっても、保証内であれば対処してくれますので、修繕費を気にする必要はありません。レンタルを導入したことで、マットレス選びの感度が上がり、患者さんにより良い環境を提供できるようになったと考えています」

また、「新しいシステムの導入や褥瘡対策で交渉を考えているなら」と、メッセージをいただきました。

「私がマットレスの院内レンタルの導入で行ったように、まずは病院の現状をデータで把握して示すこと。そして、『褥瘡ハイリスクに加算される診療報酬は、褥瘡をなくすために与えられた予算であり、患者さんのために使うものだ』と主張するべきです。どうすれば病院全体で褥瘡対策に取り組んでもらえるのか、経理や事務方に聞く耳を持ってもらえるのか。そのことを考えて、取り組んでみてください」

彦根市立病院 http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp

住所 〒522-8539 彦根市八坂町1882

TEL 0749-22-6050

日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」にて、「褥瘡の予防・治療を適切に行っている」の項目で最高評価の「S」を取得。彦根市を含む滋賀県湖東医療圏において、急性期医療を担う中核病院。平成20年に褥瘡専門外来が開設されて以来、北川智美さんを中心とする看護師、管理栄養士、ソーシャルワーカーと、褥瘡外来スタッフがチームとなって地域の褥瘡対策に取り組み褥瘡発生ゼロを達成。

今後取り組むべきは地域を包括した褥瘡対策

院内の褥瘡ゼロを実現した今、これからどんな課題に取り組むのでしょう？ それは、病院医療から在宅医療へとシフトしていくこの過渡期における、地域全体の褥瘡対策とそのマネジメントだといいます。

「重要なのは地域を包括した褥瘡対策です。地域で褥瘡対策ができていないと、結局は自宅で褥瘡が増えてしまいそれが悪化して入院、再び褥瘡患者が増え、ひいては急性期医療に手が回らなくなるという状況を生んでしまいます。これまで褥瘡ゼロを目指して取り組んできたのに、また負のサイクルに陥ってしまう。だから今のうちに活動や教育の範囲を広げて、褥瘡予防の知識を地域に浸透させておくことが大事だと考えています。国の改革により在宅介護へとシフトしていった時に、訪問看護師やケアマネジャーといった方々と、うまくコミュニケーションができないというような状況は避けたいですね」

平成24年からWOCによる訪問看護も始まりました。

「でも、まだ誰も動けていない状況ですから、私自身が経験し、環境を整えていかなければなりません。WOCは2人育ててきましたが、WOCの役割もどんどん変わっています。今の私の役割は、後続のWOCに地域包括ケアの道すじを示すことだと思っています」

もちろん病院内での活動も続行中です。現在は褥瘡だけではなく、スキンケア全般の「リンクナース会」を毎月行っているほか、ポジショニングピローを使ったポジショニング研修を実施。「今、自分にできることは何か」と、看護師としての倫理性を常に自問しているといいます。現場から離れて責任者として全体を見ながら、さらに今後は地域へと目を向け、広範囲なマネジメントも模索されています。

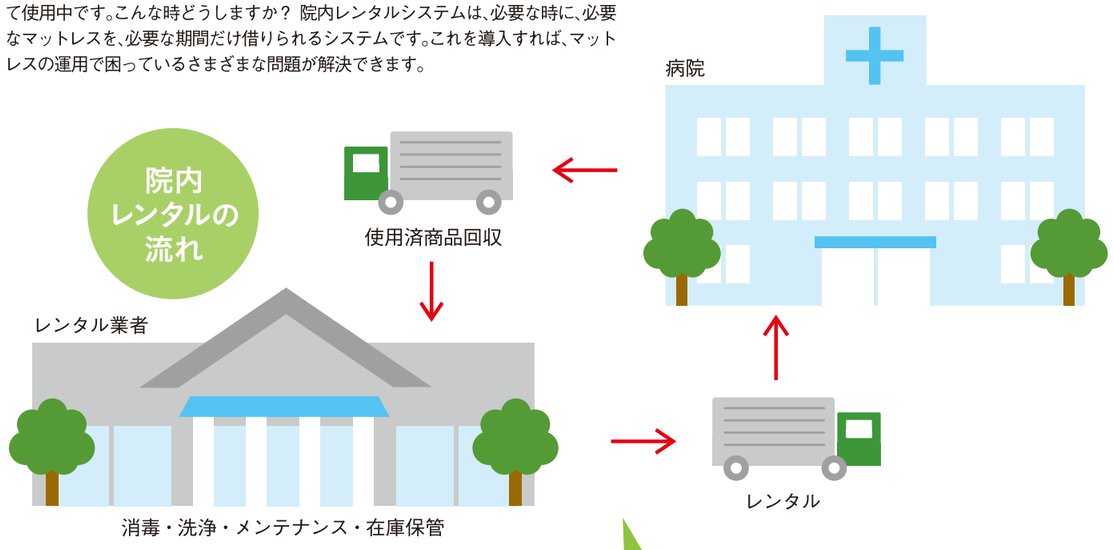
毅然とした雰囲気とあたたかな眼差し――語られた熱い思いは、その視線に込められていました。北川さんと、後輩の皆さんによる、彦根市での地域包括ケアの今後に期待が膨らみます。

上／各病棟のリンクナースが褥瘡対策のために集う「スキンケアリンクナース会」。約20名が集まったこの日は、平成26年度の総括が主テーマ。各自パワーポイントでまとめたレポートを報告。参加者の意識が非常に高いのが印象的だった。
下／リンクナース会では、各病棟からの報告に対し一人一回は質問するというルールがあり、熱心にメモを取りながら耳を傾けている。また、オムツの情報などを共有する「スキンケア通信」が配布される。

彦根市立病院でも導入しているマットレスの院内レンタルとは？

院内レンタルはこんなシステムです

褥瘡発生リスクの高い患者が緊急入院してきました。でも、院内のマットレスはすべて使用中です。こんな時どうしますか？ 院内レンタルシステムは、必要な時に、必要なマットレスを、必要な期間だけ借りられるシステムです。これを導入すれば、マットレスの運用で困っているさまざまな問題が解決できます。



効率的なコストで、患者さんへのマットレスを過不足なく準備できる院内レンタルを導入する病院が最近増えてきました。

興味のある方は…
0120-152047
または
pla@taica.co.jp
まで、ご連絡ください。

資料や業者情報をご提供いたします。

院内レンタルにはメリットがたくさん

費　用
- 初期費用が不要
- 余剰在庫を持たなくて良いので経費が削減できる
- 使用中のみ費用が発生する

製　品
- 必要な時に必要な数量のみ使用できる
- 常に清潔な状態で使用できる
- 患者様に適したマットレスを使用できる

保守・衛生
- メンテナンスが不要 ⇒労力削減、人件費削減
- 消毒・洗浄・保守・点検は不要
- へたりなど劣化を気にしなくて良い

After Talk サンライフ×タイカ

巻頭レポートでご紹介した社会福祉法人サンライフ篠田明さんとタイカとは、研修会へのご協力をきっかけに長きにわたるパートナーシップを築いています。その内容について、タイカの担当営業 飯沼さんに聞きました。

“研修や情報提供ができるというソフト面でも評価をいただいています“

ノーリフトと高い親和性を見せた「すくっと」

篠田さんとの関係は、平成21年に遡ります。篠田さんは元々、「日本ノーリフト協会」のことはご存じで、協会代表の保田淳子先生へジョイフル江南、グレイスフル春日井、グレイスフル熱田、ジョイフル各務原ほかの法人施設でのセミナー・実習を依頼されました。その際に、保田先生を通じセミナーの運営サポートや物品の協力要請をいただいたのがきっかけです。以来、定期的にご訪問して、商品や研修のご紹介、情報交換をしています。

平成23年に、グレイスフル春日井の理学療法士の方から、「マットレスが適切に選定されているか、ポジショニングが正しくできているかを見える化して検証したい」と相談をいただきました。そこで体圧センサーでの比較を提案し、実際に現場でさまざまなマットレスを比較しました。その結果、体圧分散性の高さとご利用者の動きやすさ、さらに端が硬いことによる移乗のしやすさといった機能のバランスが、ノーリフトポリシーと親和性が高いというご評価をいただきました。

新施設開設時の用具選定検討では、篠田さんから各施設長へタイカをご推薦いただいています。商品導入時には、合わせて研修を実施してきましたが、そういった知識・技術の向上につながるソフト面のサポートを、有益に感じていただけた結果だと感じています。

モチベーションの向上に繋がるとセミナーは好評

以来、「うちの施設でも床ずれ対策セミナーを実施できないか？」と各施設から個別にご相談をいただくようになりました。グレイスフル熱田では褥瘡の基礎から、褥瘡発生リスクアセスメント、ずれ力を取り除くケア、ポジショニング実習のセミナーを実施しました。約30名の参加者からは、「噛み砕いた内容でわかりやすい」「すぐに活用できそう」との声をいただいています。

篠田さんは、「現場を変えていきたい」という信念がにじみ出ているとても熱い方です。そうした想いが、入居者の安心感につながっていると感じています。私は、そんな篠田さんの想いを実現するために、これからも商品だけでなくセミナーや情報提供など私にできることを考え、ご提案していきたいと思います。

今回の取材中、「スマイルシート」について笑顔で意見を交換する篠田さん（右）と担当営業の飯沼さん。

TOPICS

腰痛予防の機器助成にエアマットレスが追加

平成25年に「職場における腰痛予防対策指針」が19年ぶりに改訂され、人による人の抱え上げは「原則行わせない」と、機器や用具を活用することで省力化に努めることが推奨されています。腰痛予防等を目的とする機器導入費を助成する「中小企業労働環境向上助成金」は今年度から「職場定着支援助成金」として引き継がれ、中小企業に限定していた申請者用件を撤廃し対象事業者を拡大しました。対象機器に新たにエアマットレス※が追加され、導入費用の半額（上限300万円）が助成されます。

※ソラなどのエアセルを内蔵したハイブリッドタイプも含む。

大好評

出張無料 床ずれ対策セミナー

私たちは、ご依頼のあった施設に出向いて年間1,000回ものセミナーを実施しています。技術の正確な理解やポジショニングをはじめとする新たな考え方の周知をめざして、医療・介護の現場で働く皆さまに、さまざまな情報をお伝えすることも重要な使命であると考えてきました。タイカは、全国各地でセミナーや講習会を開き、広範なコミュニケーション活動を続けています。

床ずれ対策セミナーのプログラム

- 床ずれについての基本セミナー
- OHスケールを用いた床ずれリスクアセスメントセミナー
- ずれ力を取り除く介助技術（実習も可）
- ポジショニングセミナー（実習も可）
- 施設内マットレスコンサルティング

ご希望の内容だけお選びいただけます。時間、内容、規模はご要望に応じてアレンジいたします。お問い合わせをお待ちしております。

セミナー事務局
TEL.0120-152047

成果が出る褥瘡講習会の様子

大好評の出張無料セミナー風景